

## 第16回全日本民医連

# 共同組織活動交流集会 in 岡山

日程・9月29日～30日 会場・岡山シンフォニーホール



## 6年ぶりの交流

### 集会に参加して

しが医療生協草津東支部

三上 拓男

9月29日・30日の2日間、岡山にて開催された交流集会は、1日目は岡山シンフォニーホールにて全体会が行われましたが、大きな会場は全国からの参加者でいっぱい、6年ぶりの大会に熱気に溢れていました。石川県健康友の会の能登半島地震支援の訴えに、会場に集まった参加者の募金額は120万円、人の力とお大きなものと感じました。15時45分からの松本ヒロさんの記念ライブは、世の中の仕組みや法律がなぜ必要なのか「憲法って！」が分かり勉強になりました。

## 分科会では多彩な活動が報告

翌日は、朝から各場所に分かれて

## 参加感想

分科会に参加、私は「民医連職員と共同組織が一緒に進める取り組み」に参加して、岐阜民医連の「地域に開かれたやさしい病院」の、ひとりごとアンケートを作成して12000軒に配布、640の回答を集めたのと、新病院説明会2020年から2024年に、1635回の訪問ホステイング署名宣伝で、共同の取り組みが弾みをつけ、みどり病院2024年5月の成果の報告は力になりました。

こびらい診療所もリニューアルを迎えますが、今回、分科会に参加して多彩な活動の多さ、人とのつながりの大切さを感じ、私も頑張らなくてはと感じました。

今回参加して最後になりますが、滋賀県のメンバと一緒にバスで参加したのは良かったし、懐かしい人にも会えたことも良かったです。只会場が分かりにくく歩きつかれました

## ハンセン病の

### 闘いに触れて

しが医療生協守山準備会

今井 恒俊

これまでハンセン病という言葉は聞いたことがある程度で、ドキュメ

ンタリー映画を見て初めて知り、あまりにも衝撃でした。

国が2つの法律を作ったこと

- ・強制隔離を定めた「らい予防法」
- ・優生思想による優生保護法

この法律の下にハンセン病患者のみなさんたちが、長い間の偏見・差別・強制隔離で、長島愛生園で暮らし続けたました。

結婚したら強制的に不妊手術をさせられたなど、まるでドイツのホロコーストのように痛感しています。

人権を守る闘いに立ち上がった患者たちの姿や、夏祭りでは地域住民との交流も、生き生きと描かれています。80代の夫婦3元患者が故郷の小学校に初めて招かれて、子どもたちと一緒に給食を食べ歌で歓迎されて「うれしい、うれしい」と涙を流し、私ももらい涙が溢れました。貴重なドキュメンタリー映画であり、この映画を若い世代につなげていくことを願っています。



舞台では岡山聾唖協会のみなさんによる、手話通訳のボランティア活動も

## 分科会のテーマと規模の多さに驚く

しが医療生協草津南準備会

佐藤 眞知夫

このたび、岡山市で開催された「第16回全日本民医連共同組織活動交流集会」に参加の機会を得ました。

プログラムを見て全体会はともかく、分科会が7つのテーマと、25会場という規模の大きさに驚きました。これでは参加したい分科会の複数参加は無理だなという気がしました。発表者もきわめて多数でこれにも驚嘆しました。

### ハンセン病ドキュメンタリー映画

今回の集会では特別に【動く分科会】という企画があり、岡山にゆかりの長島のハンセン病療養所・朝日訴訟人間裁判・戦争遺跡・水島の公書という現地見学会が組まれていて私は療養所見学を希望しましたが、残念ながら抽選にもれ、その代わりに【特別分科会】ハンセン病ドキュメンタリー映画「NAGASHIMA・かくりの証言」上映会に参加しました。ハンセン病についてはごく浅い知識しかなかったのですが、この映

画で認識を大いに深められました。

「らい予防法」という悪法によって、国・自治体が「無らい県」運動を展開し、患者の刈り込みを全国で展開して、療養所に送り込んだ歴史があります。療養所というのは名ばかりで終生そこから出られない強制収容所で、待遇の改善を求めて「反抗」した者は監房に押し込め、局が悪質とみなした者は群馬県の重監獄に送り込み、そこで獄死した患者も少なくなかったそうで、ある患者は日本のアウシュビッツだと述懐しています。

余談なのですが、松本清張の「砂の器」でも、ハンセン病患った主人公の父親を、療養所に移送する記述があります。

### 初めての参加、力になりました

しが医療生協草津東支部

片山 道夫

新型コロナウイルスの流行にともない、自粛していた全国交流が6年ぶりに開催されました。全国の取組みの発表に触れ、初めて参加した私の力になりました。

テーマ分科会は「安心して住み続

けられるまちづくりのとりくみ」に参加したのですが、全国で取り組まれている「地域でひとりぼっちにさせない」「困ったによりそう」などの活動が全国でおこなわれています。

### 多彩な相談内容に対応

とくに、食料支援、生活支援、何でも相談会などが取り組まれています。また近頃の問題では、高齢になって自動車の免許を返納すれば、買い物に行くや病院に行く手段がなくなり、交通の不便がそこら中で問題になっていることも知りました。

この様な問題の解決のために、全国で自治体交渉を通じて改善が行われています。草津・栗東地域でも安心して住み続けられるまちづくりをせねばと考えさせられました。



### 民医連の仲間と

### 過ごした2日間

しが医療生協栗東支部

川田 勇

全日本民医連の仲間と2日感を過ごしたことは、鼓動が高まりの連続でした。

全体の活動報告では、共通点として地域の困りごと問題をいち早く仲間とともに行動を起し、地域連携を強化し課題を解決する方向を参考資源として学びました。夕食交流会の他府県からの出し物は、フレイル予防体操、阿波踊り、エイサー（沖縄）を参加者全員で踊り、楽しい交流を満喫しました。

### 「NAGASHIMA」 かくりの証言を鑑賞

特別分科会の「NAGASHIMA」かくりの証言を鑑賞。監督の宮崎賢さんが約40年間長島に通い続け、患者さんとの交流を深め撮影の許可を得ての1時間50分のフィルムでした。監督の心に残る言葉は「国の責任はもとより、国民の無関心が差別の温床です」そして、どんな環境でも『希望』を忘れず、自身の『生きがい』を見つけ出す勇気が大切と強く考えさせられる時間を頂きました。今回の参加から学んだ事を、これからの活動に活かして行きます。参加の機会を頂きありがとうございました。